

新潟県立自然科学館
平成 28 年度事業報告書

平成 29 年 4 月

サイエンス・フューチャーグループ

1. 利用促進やサービス向上のための取組が行われているか

利用者の平等利用の確保

県立の総合科学館として条例を遵守するとともに、誰もが安心して利用できる施設であるよう引き続き公平・公正な運営に努めました。

館内での科学普及活動の充実を目指す一方、館外でも県民の皆様が科学に触れる機会を提供できるようアウトリーチ活動により一層積極的に取り組みました。夏季には新潟伊勢丹や新潟日報メディアシップといった新潟市中心部でイベントを複数回開催。また9月には五泉市が実施する星空観望会に実施協力しました。さらに11月には新潟市北区が新潟競馬場で開催した「キテ・ミテ・キタク」にもブース出展するなど、すでに恒例行事となっている事業と初めてお手伝いするイベントを織り交ぜ、公平性にも配慮しながらできる限り対応しました。



館外でのイベント

利用者の増加及びサービス向上を図るための取組

平成28年度の総入館者数は235,993名、昨年比約10%減でした。最大の理由である減免制度の適用日変更については後述します。変更直後の夏から秋にかけて特に入館者数が減少する時期が続きましたが、冬場以降は持ち直し、昨年並みかそれ以上の入館者数がありました。

大人	119,414 人	(129,782 人)
小人	55,530 人	(63,158 人)
幼児	61,049 人	(68,954 人)
合計	235,993 人	(261,894 人)

H28 年度年間入館者数(カッコ内は 27 年度)

当館の設立趣旨である青少年への科学知識普及の一層の促進および週末の混雑改善を目的に、既存の減免制度の見直しを行いました。小・中学生、特に学校団体が校外学習で当館をより利用しやすくなるよう平日の入館料を無料化する「ジュニア割」を新設しました。授業の一環で来館した学校からは「無料で入館もプラネタリウム見学もできて本当に助かる」との声を頂戴しています。学校団体においては予約時の電話で初めて減免制度の変更を知るところも多いことから、今後も積極的な周知に努め、校外学習での利用促進に繋がりたいと思います。

また一般のお客様からは、週末は券売所が混み合っていて入館しづらい、イベントがすぐに満員になるので参加できない等の声も頂戴していました。平日は常設展観覧、週末はイベント参加中心と目的別に利用者の分散を図ること等を目的に「ジュニア割」「パパ・ママ割」の適用を平日限定としました。この変更によって特に夏休みは平日と週末で来館の分

散を回ることができ、券売所での長時間待ち緩和に繋がりました。このようなメリットがある一方、週末に減免制度の適用がなくなることによる来館者減少の傾向もみられました。入館料を支払っても来館したくなるような施設を目指して一層魅力的なイベント実施に努めるのはもちろんですが、イベント参加への動機づけサービスも必要だと考え、9月から「自然科学館スタンプカード」の配布を開始しました。対象イベントに参加してスタンプを集めると景品がもらえる制度ですが、中には数か月のうちに規定数を集めて景品を得た常連の小学生もいました。



自然科学館スタンプカード

館の情報発信はホームページを中心に行っていますが、閲覧者の利便性を向上させるため再入場や払い戻し等、特に問い合わせが多い項目について Q&A の掲載を追加しました。さらに情報発信力の強化を目的として次年度からのホームページ刷新に向けての改訂作業を行いました。

情報の発信はホームページ以外にも幼稚園、保育園、小学校へ毎月の催し物チラシ配布、県広報誌への掲載、テレビ・ラジオ等各種メディアの活用等幅広く行っています。夏の大型イベント開催時にはポスター配布等の紙ベースでの広報に加え、ウェブ広告や観光客向け情報サイトへの情報掲載といったネットを活用した広報を強化しました。また、年間を通して外部からの取材依頼には積極的に対応するとともに、特別展招待券のプレゼント企画を行う等、様々な方法で情報発信に努めました。今年度の広報実績は下記の通りです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
テレビ	3	1	1	2	3	2	0	2	3	0	2	5	24
ラジオ	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5
新聞	1	3	3	4	0	1	1	1	1	1	1	2	19
雑誌等	6	4	9	6	3	5	3	3	8	1	2	9	59
その他	2	0	8	7	4	3	3	4	4	2	0	5	42
計	13	9	22	20	10	11	7	10	16	4	5	22	149

※ テレビ・ラジオのスポット CM は含まない

積極的な自主事業の取組

①トイレ? 行っトイレ! ボクらのうんちと地球のみらい

会期: 7月16日～8月28日

「小さな穴からつながる地球」をキーワードに、私たちの暮らしに密接に関係しているトイレや排せつ等の諸問題について楽しく真面目に考える特別展を開催しました。巨大なトイレ型すべり台を滑り降りながら排せつ物の処理過程を学べる体験型展示の他、震災とト

トイレの関係性等8つのエリアでトイレを取り巻く諸問題を紹介しました。また、特別展を盛り上げる一環として、トイレや排せつ物に関連した既存展示をピックアップして解説する館内ツアーやクイズラリーを実施し、こちらも好評を博しました。アンケートでは「トイレの現実を考えさせられた」「身近な企画でとてもよかった」「巨大な滑り台が面白かった」等の声をいただき、普段何気なく利用している「トイレ」について深く考えるきっかけを提供することができました。



②トランプくんとピエロくんの科学マジックショー

科学の力を利用した不思議なマジックショーを実施しました。液体の性質を利用して一瞬で水の色が変化するマジックや、数字の並び方を利用して参加者が無作為に選んだカードの合計数を予言するトランプマジック等を披露。トランプとピエロに扮したスタッフによるコミカルなやり取りを交えたショーは終始盛り上がりを見せ、2階フロアからも立ち見が出るほどの大盛況となりました。その他クイズラリーや手軽にできるミニマジックを紹介する実演等、月間を通してマジックに関連するイベントを多数開催し、好評を博しました。



③PIECE OF PEACE レゴブロックで作った世界遺産展

会期: 3月18日～5月7日

世界中で人気の組立玩具「レゴブロック」を使って国内外42の世界遺産を再現した作品群を展示しました。各作品は数万ピースのブロックによって細部まで丁寧に作られており、来場者が感嘆の声をあげながら写真を撮っている姿が印象的でした。また「未来に残したい新潟の宝物」と題して入場者自身がブロックで作る体験型コーナーも大変な人気を集めました。さらに当館独自企画として、新潟県が世界遺産登録を目指す佐渡金銀山を紹介する特別展示も行いました。



上記以外にも、週末には短時間で気軽に参加できる無料工作の実施や、昔ながらのからくり人形の実演、毎年人気の高い「星空ウォッチング」「Starry Night」等、大小様々なイベントを開催。冬場には屋内パーク「科学館キッズパーク」も長期設置しました。持続可能な運営に不可欠な事業採算性も考慮しながら企画、運営を行ってまいりました。

利用者意見の把握、苦情への対応

利用者意見を把握してサービス向上を図るため、館内にご意見箱を常設するほか、電子メールでも随時ご意見、ご要望を受け付けています。今年度はご意見箱へは 30 通、電子メールへは 46 通の投稿をいただきました。

<対応・改善例>

- ・ 特別展に関連して館独自で作成した解説パネルの一枚について、複数の利用者からその真偽を問う声が寄せられました。確認の結果、根拠がない内容や誤表記が認められたため即時撤去し、ホームページ上にお詫びを掲載しました。
- ・ ボランティアが実施する木工教室はノコギリ等の刃物を使用することから小学生以上を対象とするものがほとんどです。幼児でも参加できる機会を設けてほしいとの要望を受け、年齢制限および事前予約なしで気軽に参加できる木のキーホルダー作りを実施しました。開始前から列ができるほどの盛況で、急遽定員数を超えての対応となりましたが、ボランティアによる的確な指導のもと、希望者全員が工作を体験でき「とても楽しかった」「また参加したい」との声を頂戴しました。



かきくけ「木」ホルダー

地域住民や関係団体との連携

地域のサイエンスセンターとして様々な学習機会を提供すべく、各種団体との連携事業にも積極的に取り組んでいます。(株)リコーの協力で開催したイベントはカラーコピー機の仕組みを学ぶものでした。コピー機の転写や定着といった工程を一つ一つ実験しながら学んだ後、コピー機がそれらの工程を一瞬で



科学実験 コピー機のなぞ!

行ってしまう光景は、普段何気なく利用している大人の目にも新鮮に映ったようで「すごい!」と驚きの声があがっていました。また、夏季にNST主催で実施した「らくがきミュージアム」は自分の描いたイラストが命を吹き込まれたように動いたり戦ったりする体験型のイベントで、子どもを中心に多くの参加者で賑わいました。開催期間が一か月以上に渡る大型事業でしたが主催者が運営まで行ったため、夏の特別展と並行開催することができ、お客様満足の向上に繋げることができました。このように館職員だけでは限られてしまうテーマや運営を専門企業や関係団体の協力を得ることでより広く深い学びを提供することができます。今後も積極的に各種団体と連携し、魅力的なイベント実施に努めてまいります。今年度上期に実施した連携事業は次の通りです。

開催月	イベント名	連携先	参加人数
4月他	WRO Japan 新潟地区大会	WRO Japan 新潟地区大会実行委員会	127名
5月	“だし”ってなんだろう?	出汁専門店だし屋ジャパン	22名
5月	地球1個分で暮らすには?	富士通	6名
5月他	親子どろんこ学校	あさひ農研、岩田ホテルの会	53名
5月他	発見! 体験!! 山のお仕事探検隊	マルユー	30名
6月	少年少女ロボットセミナーin 新潟	芝浦工業大学	160名
6月	科学実験 コピー機のなぞ!	リコー	121名
7月	カプラブロックで遊ぼう!	日本建築学会北陸支部、新潟県建築士会	37名
7月	飛び出す海底地形	第九管区海上保安本部	
7月	鳥(バード)ウォッチ&スケッチ!!	日本野鳥の会新潟県	18名
7・8月	らくがきミュージアム	NST	7,958名
8月	LED タイマーをつくろう!	第四銀行	64名
8月	ハロー! どっこくん。	フジテレビ	150名
8月	植物で染めてみよう!	新潟県都市緑化センター、植物染め浜五	31名
8月	Pepper を動かしてみよう!	BSN アイネット	134名
8月	色の不思議 ～カラー印刷のしくみ～	大日本印刷	24名
8月他	Starry Night	FM PORT 79.0、hana*kiku	1,778名
10月	新潟県発明工夫展・模型展	新潟県発明協会	
10月	災害に強くなる! みんなの減災教室	大和ハウス工業	10名
11月	148周年灯台記念日展示会	第九管区海上保安本部交通部	
11月	きらっと反射材をつけましょう!	新潟県警察本部・交通安全協会他	530名
11月他	野鳥写真展 / 野鳥観察会等	日本野鳥の会新潟県	172名
11月	ボードゲームで学ぶ! 家のひみつ	パナホーム	16名
12月	見える光・見えない光	三菱電機	34名
12月	火起こし体験 / 勾玉づくり	新潟県立歴史博物館	152名

1月	あまい! おいしい! お砂糖の世界	三井製糖	33名
2月	ファミリー電波教室	新潟県電波適正利用推進員協議会	30名
3月	LEGO ロボット入門講習会等	長岡工業高等専門学校	20名

学校や教育機関とも連携を図り、大学の博物館実習生 5 名と県内中学生の職場体験 26 名の受け入れを行いました。博物館実習では各種講義を通して職業意識を育むとともに、実際にお客様の前で展示解説を行う等、実践的な経験を積んでもらいました。このような実習生の受け入れは、館側にとっても基本事項の再確認や日常業務を見直すよい機会になっています。

科学館事業への県民参加を図るため、毎年ボランティアの受け入れを行っており、今年度は 50 名の方が登録しました。各種イベントのサポートやロボットコーナーの運営だけでなく、それぞれの知識や得意分野を活かしたイベントを多数実施しています。「魔鏡ストラップ作り」は、見た目はただの鏡ですが、光を反射させると裏面に彫られた絵が映し出される、古代からの技術を利用した工作です。今年初めての開催でしたが普段の工作に比べて大人の参加率が高く、親子で楽しく工作に没頭している姿が印象的でした。



魔鏡ストラップを作ろう

環境への配慮

ISO14001 取得企業である(株)コングレの環境方針に準じ、事務室にコピー用紙、一般ゴミ、電気の使用量削減目標を掲示し、全職員に環境配慮への意識づけを行っています。また、環境負荷の低減を目指し、ペーパーレス化を推進するとともに、ゴミの分別収集、離席時の消灯を徹底しています。備品についても詰め替え可能な製品を選択し、長期使用を進めています。

毎月、当館の屋外展示場や花木園を利用して自然体験教室を実施しています。講師に森林インストラクターを招き、野鳥観察の方法や身近な植物を使った伝承の遊び等を紹介。毎回内容が異なるためリピーターもおり、親子で身近な自然や環境について考える機会となっています。その他、毎週末開催される無料工作教室では紙皿やトイレットペーパーの芯等、身近な廃材を使った工作を継続実施しています。このようにイベントや展示を通して、来館者の環境意識醸成を図っています。

県内産業振興・雇用確保への配慮

今年度は 6 名の職員が入社し、夏期繁忙期には多くの臨時職員を雇用しましたが、その多くが地元採用です。臨時職員には多数の応募がありましたが、意欲のある方を優先し 10 代

から 60 代まで幅広い年代の方を採用しました。

新潟県には地域の気候風土を活かした様々な工芸品や幅広い分野で優れた技術力を活かしてもものづくりを行う企業が多く存在します。4月に生活の科学3階にオープンした”NIIGATA TECHNO CUBE”は県内の優れた製品に焦点をあて、それらを製造する企業の高い技術力を紹介しています。第一期の今年度は新潟から生まれた世界初のステンレス 鋳造ホーロー鍋や、国内最後の工場で製造される昔ながらの機械式はかり等、新潟の地で生み出された世界に誇れる 6 製品を展示しています。展示品の一部は触って体験することもできるため、大人の方も興味深く製品に触れながら説明動画に見入っている姿が見受けられました。年度末には第二期に向けた公募を行い、選定された 4 社と展示方法等について意見交換を行うなどの準備も始まりました。



NIIGATA TECHNO CUBE

適切な事業評価と評価を活かした管理運営

社会の変化に対応し、科学館活動を維持、発展させていくためには、広く外部の意見や要望を伺い、客観的なアドバイスを取り入れながら館の運営に反映させていくことが必要です。このような認識から教育機関や民間企業等のご協力のもとアドバイザーボードを年度末に開催しました。

4. 適切な管理と安全を確保できる組織・体制となっているか

適切な管理体制の確保(人員配置、組織体制、職員研修)

人員配置や組織体制表については年間事業計画書の通りです。電気事業法に基づく電気主任技術者、建築物衛生法に基づく建築物環境衛生管理技術者についても、継続して有資格者を選任しています。

安全対策、危機管理体制

管理運営上予見される様々な危険に備え、危機管理体制やマニュアルの整備を行っています。また、緊急時を想定した各種訓練を定期的実施することで、職員の防災意識向上を図っています。

7月と3月の繁忙期には地震による火災発生を想定した防災訓練を実施しました。避難経路や誘導方法について再確認を行うとともに、非常時に備えてAEDを使った救命講習会を行いました。正しい使用方法についてメーカーから説明を受けるとともに、疑問点について積極的に質問して理解を深めました。さらに、消火器による初期消火、消火栓ホースを使った放水、防火シャッターの稼働試験、車いすや担架による搬送訓練等、より実践に近い形で研修を行いました。研修の後には課題点を話し合うことで、より安全な危機管理体制の確立に努めています。



防災訓練

万一の事態に備え、館の運營業務すべてが補償対象になる施設賠償責任保険へ加入しています。館外イベント時には下見や検証を十分に行うとともに、イベント保険にも加入することで金銭的なリスクにも備えています。

個人情報保護への取組

個人情報が記載されているデジタルデータはパスワード設定し、特定の管理者以外閲覧できないようにしています。また、紙媒体の資料は施錠可能な保管場所で管理しています。イベント予約時に取得する個人情報は、氏名、電話番号等連絡にあたり必要な最小限の範囲に留め、イベント終了後にはシュレッダー廃棄をして管理を徹底しています。職員間でも定期的に研修を行い、その重要性についての意識を徹底しました。

情報公開への対応

館の運営状況については、新潟県・文化振興課に毎月報告書を提出しています。その他、館の運営に関する問い合わせがあった場合には、新潟県情報公開条例に基づいて取り扱い、

公開が妥当と思われる情報については速かに開示しています。入館者数等に関する各機関からの調査についても積極的に協力し、公開してまいりました。

コンソーシアム内の取り決め

指定管理者サイエンス・フューチャーグループを構成する(公財)科学技術広報財団と(株)コングレの間で「新潟県立自然科学館管理運営業務共同事業グループ協定」を締結し、当館の管理や運営方法、両者の役割等について定めています。